

教育における「外来語の表記」について

法政大学経営学部 林 直嗣

1. 内閣告示第二号、『外来語の表記』

外来語の表記をできるだけ統一し混乱を防ぐために、内閣告示第二号（平成三年六月二十八日、1991年）、『外来語の表記』では、以下の通り定めた。「一般の社会生活において現代の国語を書き表すための「外来語の表記」のよりどころを、次のように定める。

前書き

1 この『外来語の表記』は、法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表すための「外来語の表記」のよりどころを示すものである。」とし、注3において以下のように定めている。

「注3 英語の語末の - er, - or, - ar などに当たるものは、原則としてア列の長音とし長音符号「ー」を用いて書き表す。ただし、慣用に応じて「ー」を省くことができる。

〔例〕 エレベーター ギター コンピューター マフラー
エレベータ コンピュータ スリッパ

よって法令上は、コンピューター、サーバー、ユーザー、メーカー、のように表記することが原則である。

しかし但し書きにおいて、慣用が定まっている場合には「ー」を省略できるとし、例外を認めている。コンピューターとコンピュータを並列して用いてよいという意味ではない。「留意事項の3」によると、「語形やその書き表し方については、慣用が定まっているものはそれによる。分野によって異なる慣用が定まっている場合には、それぞれの慣用によって差し支えない。」「慣用」というのは、習慣として広く世間に使われることであり、「定まっている場合」というのは、その世間の大多数により長年使われていることが条件である。

2. 世界的に権威ある辞書による発音と発音記号

(1) 語尾が - er の場合

・ Cambridge Online Dictionary (<http://dictionary.cambridge.org/>) や

・ Oxford Advanced Learner's Dictionary (<http://oald8.oxfordlearnersdictionaries.com/>)

では、British English (Received Pronunciation=RP, 英語) と American English (General American English=GenAm, 米語) の両方の発音記号を明記し、発音も音声出力できる。

(A) 語尾が -er の場合は米語では「 Θ +r 音」で音引きし、英語では r 音が微弱となる。

以下のように語尾「-er」は American English 米語では、r-colored vowel (r 音色付きの母音) といわれ、その発音記号 Θr は短母音の Θ に半母音の r 音を付加して音引きする。 Θr を Cambridge Dictionary などでは Θ (hooked schwa) と表記しているが、 Θ は米語特有の母音であり、直前の母音 Θ に影響を与え、舌の中央部が高められると共に、舌全体が後ろに引かれて、舌先が反転する。よって日本語表記では「アア」に近い。

ただし British English の発音記号では、文字 r の母音部分「 Θ 」だけが短母音 Θ として発音され、半母音部分「 r 」は上付小文字の r や括弧付きの (r) で表記し、次に母音がくる

場合以外は微弱となり、聞こえない。よって日本語表記では「ア」に近い。

Oxford Dictionary によれば、The symbol (r) indicates that British pronunciation will have /r/ only if a vowel sound follows directly at the beginning of the next word, as in far away; otherwise the /r/ is omitted. For American English, all the /r/ sounds should be pronounced.

また研究社新英和大辞典（第6版）によれば、「/ə|θ/ 米音では長母音の/ɜ:/が弱くゆるんで発音されたもの、英音では/θ/と同じ母音である。ともに語中では短い、語末ではかなり長くなる。particular では語末の/ə|θ/は始めの音節の/ə|θ/よりもかなり長く、teacher の語末の/ə|θ/は、その前の長母音の/i:/の長さと同じくらいである。」

竹林茂・斎藤弘子『英語音声学入門』（2011, p.71）によれば、/θ/は/θ:/が弱く短くなった弱母音であり、米音の/ə/は/ə:/が弱く短くなった弱母音であり、短母音であるが、語末では多少長めになる。

Cambridge	Oxford
computer <i>noun</i> UK US /kəm'pjʊ:tə/ [C or U]	computer NOUN BrE kəm'pjʊ:tə(r) NAmE kəm'pjʊ:tər
center <i>noun verb</i> UK US /sen.tə/ [C]	centre NOUN (ESPECIALLY US center) BrE 'sentə(r) NAmE 'sentər
teacher <i>noun</i> UK US /'ti:tʃə/ [C]	teacher NOUN BrE 'ti:tʃə(r) NAmE 'ti:tʃər

よって computer は米語では「コンピューター」の表記に近く、英語では「コンピュータ^(ア)」の表記に近い。ただし日本語では母音が5音しかないの、English の発音に正確に対応するものではない。

日本語で「コンピューター」のように American English の発音表記が多いのは、computer がそもそもアメリカで発明され、アメリカから入ってきたこと、戦後の日本はアメリカの政治的・文化的影響の下にあったこと、また昭和29年の国語審議会による『外来語の表記』で American English の発音表記が採用されたことが大きいと見られる。

(B) 文字 r は米語では「ɑ:r」と音引きし、英語では「ɑ:」と音引きする

R <i>noun</i> (LETTER) UK US /ɑ:r/ [C]	R NOUN BrE ɑ:(r) NAmE ɑ:r
--	--------------------------------------

と表示され、American English では「ɑ:r」と発音する。日本語表記では「アー^ル」よりも「アー^ア」のが近い。

British English では文字 r の発音は、発音記号では上付小文字 r や括弧付き (r) で示されるように、長母音部分「ɑ:アー」だけが発音され、半母音部分「r」は次に母音がある場合以外は微弱となり、聞こえない。しかし「r」の発音は微弱とはいえ、口形態が残るので、computer age や computer on the top などのように、次に母音がある場合は「r」は摩擦音として「rei レイ」や「ron ロン」のように発音する。よって長音でも American English では半母音部分「r」を発音する分だけ長くなるが、British English ではやや短くなる違いがある。

(C) r 音色付きの母音 (r-colored vowel) の特徴

compute <i>verb</i> UK US /kəm'pjʊ:t/ [T]	computer <i>noun</i> UK US /kəm'pjʊ:tə/ [C or U]
---	--

compute の「te」は発音記号では破裂音「t」と発音され、「e」は発音されない。破裂音とは、発音器官のある部分で一時呼吸を遮って、急に開放することにより生じる音をいう。

これに対して語尾に文字 r が付くと、と米語では「t θ +r=t θ 」なので「ター」と音引きして発音される。「 θ 」は単母音に分類されるが、短母音ではなく、r 音の分だけ音引きする。英語では「t θ 」と短かく発音され、「 θ 」は単母音かつ短母音である。

つまり文字「r」それ自体は「ɑ:r」と発音し、その長母音部分「ɑ:」が直前の文字「e」に影響して「 θ 」と発音され、米語では半母音部分「r」も発音されるので、文字「er」

としては「 θ r」ないし「 θ 」と発音される。ところが英語では半母音部分「r」は微弱となり聞こえないので、文字「er」としては「 θ 」と発音される。

よって/r音は直後に母音がくる場合に発音され、それ以外は省略されるという Oxford の説明は、文字 r の長母音部分「ɑ:」は発音されるが、半母音部分「r」は微弱となるが、口形態は残ると解釈するのが妥当である。この英音の「r」は「linking 'r」と呼ばれる。

口や舌の形態としては、「r」音を発音するように舌先が歯茎の後部に近づいて行く形になるが、微弱であるため音としては聞こえない。発声器官の振動が微弱であるために聞こえないほど極めて弱い発音となる。

lecture

noun UK θ US θ /lek.tʃə/ (UK) /-tʃə/ (C)

lecturer

noun UK θ US θ /lek.tʃr.ə/ (UK) /-tʃə.ə/ (C) MAINLY UK

lecture の「ure」は米語では「 θ +r= θ 」と「r」音も発音されるので「アー」と音引きされるが、英語では「 θ 」と「r」音は発音されないので短母音「ア」となる。語尾の「e」は発音されない。「r」の直後に母音「e」がくるので「re レ」と発音されるはずであるが、「e」は省略されて発音しない。

この語尾に文字 r が付くと、r の長母音部分「ɑ:」がその前の「e」に影響して「 θ 」と発音され、「urer」は米語では「 θ +r+ θ +r= θ + θ 」なので「アラー」と音引きされる。

「urer」は英語では「 θ + θ 」なので「アア」と発音されるはずであるが、r の長母音部分「ɑ:」がその前の「e」に影響して「 θ 」と母音で発音されるので、「r」は摩擦音「r」と発音される。よって「urer」は「 θ +r+ θ 」(アラ)と発音される。

(D) 文字 r の直後に母音がくる場合

computerize

computer に ize を付けて verb (UK USUALLY computerise) UK θ US θ /kəm'pjʊ:.tɪr.aɪz/ (UK) /-tɪr.aɪz/ (T) と動詞化する場合、米英語ともに文字「r」を摩擦音の「r」として発音する。よって「コンピュータライズ」という発音に近い。つまり British English でも computer の「er」は単に「t θ タ」と短母音で発音するだけでなく、口や舌の形態としては「r」音を発音するような形態が残るために、次に「i」がくると「ri」と発音されると見られる。仮に「r」音を発音するような口や舌の形態が残らなければ、次に「i」がきても「ri」と発音されず、「t θ aɪz」と発音されるはずである。

(E) 「t θ 」と「t θ +r」の発音の違い

data

noun UK θ US θ /deɪ.tə/ (UK) /-tɪə/ (U + singular or plural verb) のように語尾の発音が t θ の短母音

の場合は、「r 音」が付かないので音引きしないで「タ」で止まる。よって data analysis のように次に母音「a」がきても、「ra」とは発音されない。しかし上記例「ter」の British English の発音記号「t θ r」は、「r 音」が上付小文字ないし括弧付きで付くので、文字「r」

の母音部分は発音され、半母音部分「r」は発音されなくても発音する口や舌の形態は残るため、次の母音がくると明確に発音される。

(F) er が語中と語尾の両方にくる場合

server

noun (COMPUTING) UK  US  /sɜː.və(r)/  /sɜː.və-/ [C]

server NOUN

BrE  'sɜːvə(r)

NAmE  'sɜːrvər

の場合、語

尾の「-er」は British English では r の母音部分だけ発音されて半母音部分は省略される。American English では Θ +r 音ゆえ長く音引きされる。

しかし語中の「er」は British English の場合、「r」の母音部分「ɜː」が直前の母音「e」に影響を与え、それと合わさって長母音「ɜː」と発音される。ただし半母音部分「r」は微弱であり聞こえない。American English の場合は、「r」の母音部分「ɜː」が直前の母音「e」に影響を与え、しかも半母音部分「r」も発音されるので、合わさってフック付き長母音「ɜː」として発音される。

British English で文字「r」をすべて発音せずに省略するというのであれば、このようにはならない。語中の「er」の直後に子音「v」がくるにも関わらず、長母音「ɜː」と音引きされるのであるから、次に母音がくる場合以外に省略されるのは半母音部分「r」だけであり、文字「r」の長母音部分「ɜː」は長音で音引きする影響を本来的に持っている。

sever

server から「r」を除く sever は verb UK  US  /sev.ə(r)/  /-ə/ [V] と発音し、「se」は「se」と発音し、音引きしない。「ser」と「r」が付くことにより「sɜː」と長母音で音引きする。

(G) er が語尾にくる場合と語中にくる場合の違い

inter

verb UK  US  /ɪn'tɜː(r)/  /-tɜː(r)/

inter VERB

BrE  ɪn'tɜː(r)

NAmE  ɪn'tɜːr

の「-er」は英米どちら

でも「長音符号 ː」と「r」音が付くので「アー」と長母音で音引きする。しかし、

the Internet

noun (ALSO the internet) UK  US  /ðiˈɪn.tə.net/  /-tə-/ [S]

Internet NOUN (also internet)

BrE  'ɪntənət

NAmE  'ɪntənət

と

「er」が語中にある場合には、British English では「r」音は微弱で聞こえないので表記されず、「tɜː」の短母音となって「インタネット」と聞こえる。しかし「r」の口形態は残る。

server の場合は語中の「er」は逆に長母音で音引きされるので、発音慣習は必ずしも規則的でない場合がある。

American English では「 Θ +r」であるので「tɜːター」と音引きし、「インターネット」と発音する。

日本語で「インターネット」の表記が圧倒的に多いのは、アメリカの政治的・文化的な影響が大きかったことに加えて、そもそも internet がアメリカで生まれ、アメリカから入ってきたものであり、IT 文化では British English ではなく American English の影響が圧倒的に大きいことによる。

しかし近年になって日本の一部の分野で「コンピュータ」「サーバ」「センタ」の表記が使われたのは、British English の影響ではなく、これとは関係ない別の影響であることを後に説明する。

(H) 他の代表的な英米辞書

以下の代表的な英米の辞書では、「-er」の発音は、American English では「ər」または「ə」で音引きされ、British English では「ə(r)」または「ə」の短母音で、「r」は微弱で聞こえない。しかし server の語中の「er」は両方共に長母音で音引きされる。

MACMILLAN Dictionary

com-put-er /kəm'pjʊtər/ noun [C] ★★★ a machine that stores programs and information in electronic form and can be used for a variety of processes, for example writing, calculating, and communicating on the Internet: *All our computers are linked to a main network.* ♦ **on/by computer** *Ticket reservations are all done on computer.* **a.** [only before noun] relating to computers: *The job requires basic computer skills.* ♦ *computer systems/software* ♦ *a computer program/programmer/game* — picture → c3

CollinsCOBUILD Dictionary

computer /kəm'pjʊ:tə/ (computers) A computer is an electronic machine that can store and deal with large amounts of information. □ *The data are then fed into a computer... The car was designed by computer.* → See also **personal computer.**

LONGMAN Dictionary

com-put-er /kəm'pyu:tər/ n an electric calculating machine that can store and recall information and make calculations at very high speeds

serv-er /'sɜ:vər/ n something used in serving food, esp. a specially shaped tool for putting a particular kind of food onto a plate

Random House Dictionary

com-put-er /kəm'pjʊ:tə | -tə/ n. 1 電算機, コンピューター: by ~ コンピューターで (operate) a ~ コンピューターを使う / program a ~ コンピューターのプログラムを組む / install a ~ コンピューターをインストールする / store information in a ~ (後で取り出す) そのままの形で情報をコンピューターに入れておく / transfer information into a ~ (処理を加えるために) 情報をコンピューターに送り込む / ⇒ analogue computer, digital computer, personal computer. 2 計算者, 算定者. [(1646): ⇒ -er']

serv-er /sə:və | sə:və/ n. 1 仕える人, 勤める人, 勤務者, 奉仕者, 給仕人. 2 a (料理をのせる) 盆 (tray, salver). b 配膳(びん)台, ワゴン. c コーヒー[紅茶]セット (通例 pot, sugar bowl, cream pitcher, tray から成る). d 食べ物を供するもの (しゃくし・へらなど). 3 【電算】サーバー (分散処理システムにおいて, client からの要求に応じてサービスを供給する機器[プロセス]). 4 【スポーツ】(テニスなどで) サーバー (サーブをする人; ↔ receiver). 5 【キリスト教】(ミサなどで司祭の) 侍者 (acolyte), サーバー (cf. serve vi. 8, 13). 6 【法律】令状を送達する人. 【c1380】

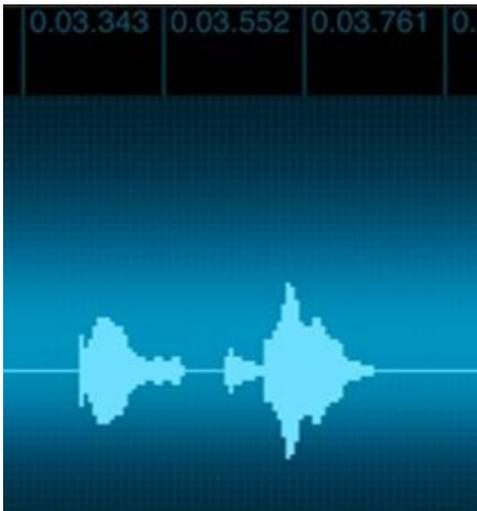
よって内閣告示第二号が定めるように「英語の語末の -er などに当たるものは、原則としてア列の長音とし長音符号「ー」を用いて書き表す。」ことは妥当である。

(I) 音声振動解析による短母音と長母音の識別

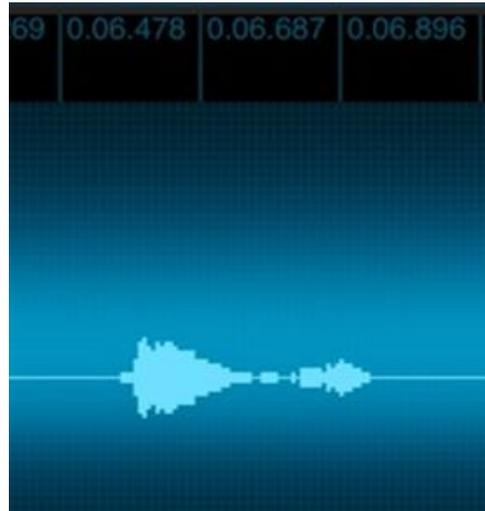
Cambridge Dictionary の発音を用いた Recorder Plus 2 による解析

data

noun UK US /deɪ.tə/ (US) /-tə/ [U + singular or plural verb]



英語：da と ta の部分が明確に分離し、
ta の a は強振動で音引きしない短母音 ə



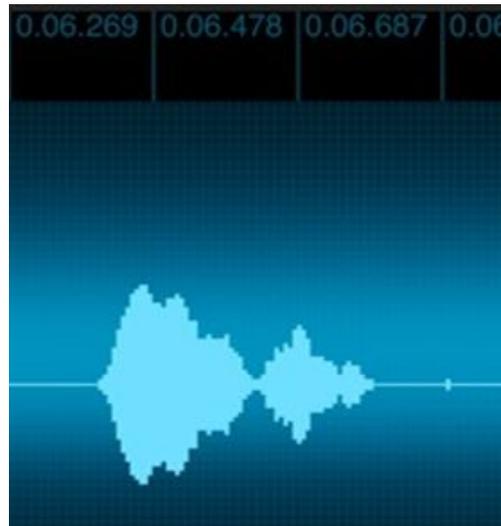
米語：da と ta の部分が分離し、ta の a は弱振
動で音引きしない短母音 ə

quota

noun UK US /'kwɒtə/ (US) /'kwɒ.tə/ [C]



英語：quo と ta の部分が明確に分離し、
ta の a は弱振動で音引きしない短母音 ə



米語: quo と ta の部分が分離し、ta の a
は強振動で音引きしない短母音 ə

computer

noun UK US /kəm'pjʊ:tə/ (US) /-tə/ [C or U]



英語:com と pu と ter の部分が明確に分離し、
ter の er は弱振動で音引きする長母音 ə
r は弱振動で発音されている



米語 : com は分離し、pu と ter は繋り、
ter の er は強振動で音引きする長母音 ə

center

noun verb UK US /'sen.tə/ (US) /-tə/



英語:cen と ter の部分が明確に分離し、
ter の er は弱振動で音引きする長母音 ə
r は弱振動で発音されている



米語 : cen と ter の部分が分離し、
ter の er は強振動で音引きする長母音 ə

分析結果

英語 (British pronunciation) では語尾の-er は「ə」で発音され、Cambridge の上付の r、ないし Oxford の(r)は、次の語頭が母音である以外は発音されないといわれてきた。しかし音声振動解析をすれば明らかなように、これは間違いである。r は弱振動で明確に発音されている。弱振動であるために、人間の聴覚能力では聞き取りにくい、ほぼ聞こえない、というのが真実である。r は聞き取りにくくても、明確に発音されているので、later on (レイタロン) のように、次の語頭が母音である場合には、連声法によりその母音につられて強

振動で発音される。

米語では語尾の -er は「ə」（hooked shwa）と発音されるので、r は必ず発音される。

(2) 語尾が「-ar」の場合

Cambridge

car

noun UK  US  /kɑːr/  /kɑ:r/ [C]

radar

noun UK  US  /reɪ.dɑːr/  /-dɑ:r/ [U]

Oxford

 car NOUN

 BrE ka:(r)

 NAmE ka:r

 radar NOUN

 BrE 'reɪdɑ:(r)

 NAmE 'reɪdɑ:r の語尾「-ar」は

Cambridge でも Oxford でも American English の場合、「長音符号 ː」と「r」音が付くので「アー」と長母音で音引きする。British English では「r」の半母音部分が省略されるが、直前に「長音符号 ː」が付くので「アー」と長母音で音引きする。

calendar

noun UK  US  /'kæl.ɪn.də' /  /-də/ [C]

 calendar NOUN

 BrE 'kælɪndə(r)

 NAmE 'kælɪndər

modular adjective UK  US  /'mɒd.jʊ.lə' /  /'mɑː.dʒə.lə' /

modular ADJECTIVE

 BrE 'mɒdjələ(r)

 NAmE 'mɑːdʒələr の語尾「-ar」は Cambridge でも Oxford でも

American English の場合、「ə+r 音」ゆえ「アー」と音引きする。ただし British English では「r」の半母音部分が省略される。

よって内閣告示第二号が定めるように「英語の語末の -ar などに当たるものは、原則としてア列の長音とし長音符号「ː」を用いて書き表す。」ことは妥当である。

(3) 語尾が「-or」の場合

Cambridge

floor

noun (SURFACE) UK  US  /floːr/  /flo:r/

Oxford

 floor NOUN

 BrE flɔ:(r)

 NAmE flɔ:r の語尾「-or」は

Cambridge でも Oxford でも American English の場合、「長音符号 ː」と「r」音が付くので「オアー」と長母音で音引きする。British English では「r」の半母音部分が省略されるが、直前に「長音符号 ː」が付くので「オー」と長母音で音引きする。

motor

noun (DEVICE) UK  US  /'məʊ.tə' /  /'mou.tə/ [C]

 motor NOUN

 BrE 'məʊtə(r)

 NAmE 'moutər

の語尾「-or」は Cambridge でも Oxford でも American English の場合、「ə+r 音」ゆえ「アー」と音引きする。ただし British English では「r」の半母音部分が省略される。

よって内閣告示第二号が定めるように「英語の語末の -or などに当たるものは、原則としてア列の長音とし長音符号「ː」を用いて書き表す。」ことは妥当である。

(4) それ以外の語尾で -cy, -ry, -ty などでは長音符号を付けない「プライバシー」、「メモリ」、「プリティ」が原音に近い

• Cambridge Online Dictionary (<http://dictionary.cambridge.org/>) や

・ Oxford Advanced Learner's Dictionary (<http://oald8.oxfordlearnersdictionaries.com/>)

では、British English と American English の両方の発音記号で、語尾が-cy, -ry, -ty の場合は以下のように si, ri, ti と短母音で終わるので、長音符号を付けない。

竹林茂・斎藤弘子『英語音声学入門』（2011, p.64）によれば、city, merry の y のように語末の弱母音/i/は「イ」を弱くやや長めに発音する。reality の e のように母音の前の弱母音/i/は「イ」を弱く短く発音する。

(A) 語尾が-cy の場合

privacy

noun UK US /ˈprɪv.ə.sɪ/ (US) /ˈpraɪ.və-/ [U] BrE 'prɪvəsi NAmE 'praɪvəsi

privacy NOUN

literacy

noun UK US /ˈlɪt.ə.rɪ.sɪ/ (US) /ˈlɪ.ə-/ [U] BrE 'lɪtərəsi NAmE 'lɪtərəsi

literacy NOUN

よって「プライバシ（英ではプリバシ）」「リテラシ」が原音に近い。ただし語末の/i/は「イ」を弱くやや長めに発音するので、「プライバシィ（英ではプリバシィ）」「リテラシィ」のがさらに近い。「プライバシー」「リテラシー」では長すぎる。

(B) 語尾が-ry の場合

memory

noun (ABILITY TO REMEMBER) UK US /ˈmem.ər.i/ (US) /-ə-/ BrE 'meməri NAmE 'meməri

memory NOUN

battery

noun (ELECTRICAL DEVICE) UK US /ˈbæt.ər.i/ (US) /ˈbæt.ə.i/ BrE 'bætəri NAmE 'bætəri

battery NOUN

よって「メモリ」「バッテリー」が原音に近い。「メモリー」「バッテリー」では長すぎる。

(C) 語尾が-ty の場合

security

noun (PROTECTION) UK US /sɪˈkjʊə.rɪ.ti/ (US) /-kjʊə.r.ɪ.ti/ BrE sɪˈkjʊərəti NAmE səˈkjʊərəti

security NOUN

party

noun (CELEBRATION) UK US /ˈpɑː.ti/ (US) /ˈpɑːr.ti/ BrE 'pɑːti NAmE 'pɑːrti

party NOUN

よって「セキュリティ」「パーティー」が原音に近い。「セキュリティー」「パーティー」では長すぎる。

3. 新聞などマスコミは内閣告示第二号の原則を遵守

日本新聞協会では、新聞用語懇談会が1996年に定めた表記基準を基に、「外来語の書き方・用例」の統一表記を定めた。これにより内閣告示第二号の原則を遵守することになり、コンピューター、ユーザー、サーバー、プリンターなどのように語尾が-er, -ar, -orの単語については、語尾の長音符号「ー」を省略しないことを決定した。これ以降、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などのマスコミは、すべてこの基準に従っているため、社会的影響力は非常に大きい。

4. マイクロソフト社の商品戦略の影響とその転換

：日本の一部で「コンピュータ」「サーバ」など語尾の長音が省略された原因

インテルのx86系のマイクロプロセッサに対応したマイクロソフト社のMS-DOSは

1981年にIBM PC/AT機のPC-DOSとして登場し、パソコンOSの約95%と圧倒的なシェアを占めた。しかしBIOSなどを除いて使えるメモリ空間は僅かに640KB程度しかなかった。そこでマイクロソフト社はメモリ節約のため、外来語のカタカナ表記においてエディタ、コンピュータ、サーバ、プリンタ、プロセッサ、マネージャ、モニタ、ユーザ、などのように、語尾の長音符号「ー」を省略して表記する商品戦略をとった。

PCを使う際に毎回こうした表記を見続けた世代は、マイクロソフト社の商品戦略に影響されて、語尾の長音省略を正しいものと洗脳された。彼らはBritish Englishの影響とは関係なく、メモリ節約による独特の表記を無意識のうちに移植された。理工系にその影響が顕著に見られる。

しかしメモリ能力の向上につれて、メモリ節約で語尾省略をする必要はなくなったので、その後マイクロソフト社は、内閣告示第二号が定める表記法に順次改めていった。

2001年にリリースしたWindows XPでは、語尾が-er, -or, -arの単語の場合、

(1) 長音省略 アクセラレータ (インターネットオプション)、エクスプローラ (デスクトップ)、コントローラ、コンピュータ(デスクトップ)、ドライバ、フォルダ (デスクトップ)、プリンタ、マネージャ (デスクトップ)、モニタなどと旧来の長音省略を残したのものもあるが、

(2) 長音付加 インターネット、インターフェイス、エクスプローラー (インターネットオプション)、エディター、エラー、カスタマー、カレンダー、コンピューター (インターネットオプション)、サーバー、スピーカー、セーバー、センター、フィルター、フォルダー、ブラウザー、プロバイダー、ホルダー、メーカー、ユーザーなどと、内閣告示第二号の原則に従うものが大幅に増えた。とはいえ(1)長音省略と(2)長音付加の理論的な区別はなく、単に場当たりの思いつきで混乱表記をしていた。

また語尾が-cy, -ry, -tyの単語では長音を付けないのが原則であるが、セキュリティ、プライバシー、プロパティ、ポリシー、メモリなどと混乱表記をしていた。

VISTAでも同様の混乱表記が続いた。

しかし内閣告示第二号の社会的浸透を踏まえて、マイクロソフト社は商品戦略を全面的に転換し、**2008年には内閣告示第二号の原則を全面的に遵守することを宣言した**。そして2009年にリリースしたWindows 7からは、エクスプローラー、コントローラー、コンピューター、ドライバー、フォルダー、プリンター、マネージャー、モニターなどのように原則通りに訂正された。ただし長音省略を残存する例外として、アクセラレータ (インターネットオプション)、ピクチャ、プロセッサなどが残存している。

また語尾が-cy, -ry, -tyの単語では長音を付けないのが標準発音の原則であるが、部分的にプライバシー、ポリシー、などが長音を残存している。

したがって混乱表記は極めて少数となり、完全とはいえないがほぼ内閣告示第二号の原則通りの表記に訂正された。今後は毎日PCを使うたびに「コンピューター」「プリンター」「モニター」のように原則通りに表示されるので、長音表記の原則はさらに一層社会に浸透していくと見られる。

2008年7月25日 (Japan) マイクロソフト株式会社

■テクノロジーポリシー

マイクロソフト製品ならびにサービスにおける外来語カタカナ用語末尾の長音表記の変更について

～ 新しい長音表記ルールに順次移行 ～

マイクロソフト株式会社 (本社：東京都渋谷区、以下マイクロソフト) は、外来語カタカナ用語末尾の長音表記について、今後の製品やサービスの開発において国語審議会の報告を基に告示された1991年6月28日の内閣告示第二号をベースにしたルールへ原則準拠

する方針を決定しました。今後、弊社製品ならびにサービスの将来のバージョンにおいて、この長音表記ルールに順次移行することを発表します。

これまでマイクロソフトでは、外来語カタカナ用語末尾の長音処理に関しては、**JIS 用語や学術用語に規定されていない用語**について、「2音の用語は長音符号を付け、3音以上の用語の場合は（長音符号を）省くことを“原則”とする」主旨の規定に則した表記ルールを採用していました。しかしながら、コンピューターの普及が進み、技術進歩とともに過去のハードウェアおよびソフトウェアの制約が解消されつつある現状を受け、今後は、より自然な発音に近い表記を採用します。

今後弊社が採用する長音表記ルールは、国語審議会の報告を基に告示された1991年の内閣告示第二号をベースにしたものです。このルールでは、英語由来のカタカナ用語において、言語の末尾が**-er、-or、-ar**などで終わる場合に長音表記を付けることを推奨しています。既に、新聞や放送は概ねこの『外来語の表記』に準拠し、長音符号を付けることを原則としています。ただし、慣用により音引きを省略する例外も認められており、例外対応については、マイクロソフト日本語スタイルガイド

<http://www.microsoft.com/language/ja/jp/download.msp> に記します。

◇ルール変更の理由とメリット

コンピューターが広範に普及するにつれ、末尾の長音を省略する傾向の強い工業系、自然科学系の表記に対するユーザーの違和感が増大しています。市場のニーズとして、より発音に近い表記が求められています。

ハード/ソフト上の制約が技術進歩とともに解消され、より自然な表記が可能になってきています。

読み上げソフト等、アクセシビリティ向上においても自然な発音が求められており、これが可能となります。

採用ルールは新聞・雑誌やTVで原則とされているほか、同業界内の多くのメーカーで採用されており、ユーザーフレンドリーです。

5. アップル社の表記事例

PCシェアの残りの5%ほどを占めるアップル社も、当初はメモリ制約により語尾の長音符号を省略する傾向があったが、マイクロソフト社ほど明確な商品戦略はなく、現状ではHPなどを見る限り以下の通りかなり混乱した表記をしている。

語尾が**-er、-or、-ar**の単語の場合、

(1) 長音省略 アダプタ、サーバ、コネクタ、コンピュータ、ブラウザ、プロバイダ、モニタ

(2) 長音付加 エンター、カードリーダー、カバー、カレンダー、コンピューター (iTune)、スピーカー、センター、トップセラー、パートナー、フォルダー (iTune)、ブラウザー (iTune)、プレーヤー (iTune)、プロジェクター、レーザー、レシーバー、ユーザー (iTune)

語尾が**-cy、-ry、-ty**などの単語では、アクセサリ、アクセサリー (iPad)、アクセシビリティ、コミュニティ、テクノロジー、プライバシー、ポリシー、ライブラリ (iTune)

6. JIS規格票では内閣告示第二号を一貫して遵守してきた

JIS規格では、JIS規格票に書く外来語の表記法をZ8301「規格票の様式」の中で定め、1990年版では「昭和29年3月15日の国語審議会による外来語の表記」に従うと定めた。

次いで 1991 年に内閣告示第二号が定められたため、それに従って 1995 年改正では、
「用語及び外来語の表記

b) 外来語の表記 外来語の表記は、主として“外来語の表記”平成 3.6.28, 内閣告示第二号) による。」と内閣告示第二号を遵守する原則を明確にした。

ただし「規格の用語にも学術用語にもない場合には」例外として次を適用するとした。

「解説付表 3 原語(英語)の語尾の長音符号を省く場合の原則

- a) その言葉が 3 音以上の場合には、語尾に長音符号を付けない。 エレベータ(elevator)
 - b) その言葉が 2 音以下の場合には、語尾に長音符号を付ける。 カー(car), カバー(cover)
- 複合語は、それぞれの成分語について a)、b) を適用する。(例:「モーターカー (Motor car)」は「モータカー」とする) 」

これは言語学的には何ら合理的根拠を持たないものであり、2 音以下の場合に長音符号を省略すると、カ、カバ、エラ、などのように意味不明になるので、便宜的に例外を設けたと見られる。

ところが「規格の用語にも学術用語にもない場合には」という限定条件を全く理解せずに、解説付表 3 の原則を規格の用語や学術用語に適用するという錯誤が一部の人によりおこなわれ、しかも規格票の様式に限定すべきこの書き方をそれ以外の一般文書にも適用するという間違いが犯されてきた。

JIS 規格票の様式を定める Z8301 は、JIS 規格票を書く場合にのみ適用されるべきであり、それ以外の一般文書に適用するべきでないことはいままでもない。しかしマイクロソフト社によるメモリ節約の古い商品戦略に迎合した一部の人は、Z8301 の例外規定を曲解し、これを JIS 規格の原則的な根拠であると吹聴して、一般文書でも混乱した不適切な表記を習慣づけてしまった。

JIS が 1995 年から一貫して内閣告示第二号を遵守し、マイクロソフト社が 2008 年から内閣告示第二号の原則を遵守するように方針転換した後でさえ、そうした一部の人は一般文書を書く際にも旧弊に拘泥し続けているケースがある。

7. 高校教科における外来語や固有名詞の表記

高校教科では、できるだけ「原音に近い発音表記とすべきこと」がほぼ確立している英語、歴史、政治経済、などの分野がある。

Julius Caesar (BC100~BC44)は古代ローマ共和政の独裁官であったが、日本では昔はジュリアス・シーザーと英語名で発音表記していた。しかし現在ではラテン語の原音に近づけてユリウス・カエサルと表記する。よって上記情報教科書 E は、旧弊に拘っているのが不適切である。以下では旧表記と新表記を対照させてある。

Jesus Christ (BC4~AD30) ジーザス・クライストではなくイエス・キリスト

Henri V (在位 1589~1610) ヘンリ 5 世ではなくアンリ 5 世

Ekaterina II (在位 1762~96) エカテリナ 2 世ではなくエカチェリーナ 2 世

Martin Luther (1483~1549) マルチン=ルーテルではなくマルティン=ルター

Chinggis Khan (在位 1206~27) ジングスカンではなくチンギス=ハン

Hoover (在職 1929~33) フーバーではなくフーヴァー

Roosevelt (在職 1933~45) ルーズベルトではなくローズヴェルト

Château de Versailles ベルサイユ宮殿ではなくヴェルサイユ宮殿

Genève ジュネーブではなくジュネーヴ

Vietnam ベトナムではなくヴェトナム

Weimar ワイマールではなくヴァイマル

8. 高校情報教書の表記事例

2003年度から中学では「情報」、高校では「情報 A、情報 B、情報 C」が新設され、2006年度からはその教育を受けた生徒が大学に入学してきた。情報の教科書は主として理系の教員が執筆しており、種類も多くある。

(A) 日本文教出版『新・情報 A』（水越敏行・村井純編、平成 19 年）では外来語の表記は以下のようになっている。

語尾が **-er, -or, -ar** などの単語の場合、（語尾でない場合も含む）

(1) 長音省略 キャプチャ、コンピュータ、サーバ、スピーカ、センサ、トランジスタ、ブラウザ、プリンタ、プレーヤ、プロバイダ、

(2) 長音付加 アドベンチャー、アニメーター、インターネット、カラー、キャラクター、クラッカー、サイバー、デザイナー、ディレクター、ハイパー、ハッカー、プランナー、プログラマー、プロデューサー、ペーパー、マザー、ライター、などと混乱表記しており、

語尾が **-cy, -ry, -ty** などの単語では、カテゴリ、コミュニティ、セキュリティ、プライバシー、フロッピー、ポリシー、メモリ、

などと混乱表記している。cyber、hyper、color の **-er** や **-or** を長音でサイバー、ハイパー、カラーと発音表記しておきながら、censor、computer、server の **-er** や **-or** をなぜ短母音でセンサ、コンピュータ、サーバ、と発音表記するのか、気紛れと不合理かつ不整合な混乱がある。category、security の **-ry** や **-ty** を短母音でカテゴリ、セキュリティ、と発音表記しておきながら、privacy、floppy の **-cy** や **-py** をなぜ長音でプライバシー、フロッピー、と発音表記するのか、気紛れと混乱がある。

(B) 第一学習社『情報 A』『情報 B』『情報 C』（平成 18 年）では外来語の表記は以下のようになっている。

語尾が **-er, -or, -ar** などの単語の場合、（語尾でない場合も含む）

(1) 長音省略 インタフェース、エディタ、コンピュータ、サーバ、トランジスタ、フォルダ、ブラウザ、プロセッサ、リーダー、ルータ、

(2) 長音付加 アナウンサー、インターネット、インフラストラクチャー、カウンセラー、サッカー、センター、ハイパー、ハッカー、ファイバー、ベクター、ベンチャー、マネージャー、ワーカー、

などと混乱表記しており、

語尾が **-cy, -ry, -ty** などの単語では、ストーリー、ディレクトリ、プライバシー、メモリ、リテラシー、

などと混乱表記している。center、fiber、vector の **-er** や **-or** を長音でセンター、ファイバー、ベクターと発音表記しておきながら、computer、folder、processor の **-er** や **-or** をなぜ短母音でコンピュータ、フォルダ、プロセッサと発音表記するのか、気紛れと不合理かつ不整合な混乱がある。directory、memory の **-ry** を短母音でディレクトリ、メモリ、と発音表記しておきながら、story、privacy の **-ry** や **-cy** をなぜ長音でストーリー、プライバシー、と発音表記するのか、気紛れと混乱がある。

(C) 東京書籍『情報 A』（平成 19 年）では外来語の表記は以下のようになっている。

語尾が **-er, -or, -ar** などの単語の場合、（語尾でない場合も含む）

(1) 長音省略 インタフェース、エディタ、コンピュータ、サーバ、スピーカ、フォルダ、ブラウザ、プリンタ、プロジェクタ、プロセッサ、ヘッド、ポスター、モータ、ユー

ザ、

(2) 長音付加 インターネット、カラー、キーパー、キャスター、キャラクター、タイムキーパー、ディレクター、ナレーター、プレーヤー、ペーパー、メンバー、リーダー、リポーター、レイヤー、レーダー、
などと混乱表記しており、

語尾が-cy, -ry, -ty などの単語では、ジャギー、ストーリー、セキュリティ、ディレクトリ、デモクラシー、バイナリ、プライバシー、フロッピー、ポリシー、メモリ、リテラシー、

などと混乱表記している。director、player、radar の-er や-or や-ar を長音でディレクター、プレイヤー、レーダーと発音表記しておきながら、computer、printer、motor の-er や-or をなぜ短母音でコンピュータ、プリンタ、モータと発音表記するのか、気紛れと不合理かつ不整合な混乱がある。security、binary の-ty や-ry を短母音でセキュリティ、バイナリ、と発音表記しておきながら、story、literacy の-ry や-cy をなぜ長音でストーリー、リテラシー、と発音表記するのか、気紛れと混乱がある。

(D) 実教出版『情報 A』(岡本敏行・山極隆編修、平成 21 年)では外来語の表記は以下のようにになっている。

語尾が-er, -or, -ar などの単語の場合、(語尾でない場合も含む)

(1) 長音省略 アダプタ、インタフェース、エディタ、キャプチャ、コンバータ、コンピュータ、サーバ、トランジスタ、フォルダ、ブラウザ、プロジェクタ、プロバイダ、ルータ、ユーザ、

(2) 長音付加 インターネット、カラー、サイバー、ファイバー、
などと混乱表記しており、

語尾が-cy, -ry, -ty などの単語では、プライバシー、メモリ、リテラシー、
などと混乱表記している。internet、cyber、fiber の-er を長音でインターネット、サイバー、ファイバー、と発音表記しておきながら、interface、computer、server の-er をなぜ短母音でインタフェース、コンピュータ、サーバと発音表記するのか、気紛れと不合理かつ不整合な混乱がある。memory の-ry を短母音でメモリ、と発音表記しておきながら、literacy の-cy をなぜ長音でリテラシー、と発音表記するのか、気紛れと混乱がある。

(E) 開隆堂『新版情報 B』(平成 19 年)では外来語の表記は以下のようにになっている。
語尾が-er, -or, -ar などの単語の場合、(語尾でない場合も含む)

(1) 長音省略 インタフェース、コンピュータ、シミュレータ、プロセッサ、プロバイダ、ルータ、ユーザ、

(2) 長音付加 インターネット、カラー、スーパー、センター、ポスター、
などと混乱表記しており、

語尾が-cy, -ry, -ty などの単語では、ストーリー、セキュリティ、プライバシー、フロッピー、メモリ、

人名の場合は、ジュリアス・シーザー、

などと混乱表記している。internet、center、color の-er や-or を長音でインターネット、センター、カラー、と発音表記しておきながら、interface、computer、processor の-er や-or をなぜ短母音でインタフェース、コンピュータ、プロセッサと発音表記するのか、気紛れと不合理かつ不整合な混乱がある。security、memory の-ty や-ry を短母音でセキュリティ、メモリ、と発音表記しておきながら、story、privacy の-ry や-cy をなぜ長音でストーリー、プライバシー、と発音表記するのか、気紛れと混乱がある。

(K) 教材 K では、外来語の表記は以下のようになっている。

語尾が**-er, -or, -ar**などの単語の場合、(語尾でない場合も含む)

(1) **長音省略** エスカレータ、エディタ、コンパイラ、コンピュータ、スピーカ、プロジェクト、フッタ、ヘッダ、ポインタ、ルーラ、ユーザ、

(2) **長音付加** アンダーライン、インターネット、ウィザード、エラー、カラー、カレンダー、コーナー、ショート、ネットワーク、バインダー、パーセント、パワー、フォーマット、フッター、ヘッダー、マーカー、
などと混乱表記しており、

語尾が**-cy, -ry, -ty**などの単語では、コピー、セキュリティ、ディレクトリ、テクノロジー、リテラシー、

などと混乱表記している。error、corner、binder、calendar、header の**-er, -ar, -or**を長音でエラー、コーナー、バインダー、カレンダー、ヘッダー、と発音表記しておきながら、editor、computer、speaker、header の**-er**や**-or**をなぜ短母音でエディタ、コンピュータ、スピーカ、ヘッダ、と発音表記するのか、気紛れと不合理かつ不整合な混乱がある。security、directory の**-ty**や**-ry**を短母音でセキュリティ、ディレクトリ、と発音表記しておきながら、technology、literacy の**-gy**や**-cy**をなぜ長音でテクノロジー、リテラシー、と発音表記するのか、気紛れと混乱がある。

このほかにも教科書はあるが総じて、内閣告示第二号の語尾が**-er, -or, -ar**の単語の原則に反するだけでなく、JIS 規格票の解説付表 3 の例外規定に従うわけでもなく、語尾が**-cy, -ry, -ty**などの単語の原則に従うのでもなく、それぞれが単なる思いつきや気まぐれによって、不合理かつ不整合に長音を付けたり付けなかったりするだけで、混乱表記している。

学術研究は博士課程以上で行われるものであり、小学校、中学、高校から大学、修士課程までの教育は学術研究ではなく、公共財ないし準公共財としての教育であり、公知の事実を教授するべきものである。思いつきや気まぐれにより、公知の事実を歪めて混乱をもたらすべきではない。本来英語や日本語が持っている規則性や美しさを理解せず、思いつきや気まぐれで不合理かつ不整合な混乱表記をすることは、教育としてあるまじきことである。

9. 大学生による表記

法政大学経営学部の 1 年次科目の履修生 300 人に正しい外来語の表記を聞いたところ、以下の回答であった。

- (1) center、センター:300 人 (100%)、センタ:0 人 (0%)
- (2) internet、インターネット:277 人 (92%)、インタネット:22 人 (7%)
- (3) batter、バッテリー:183 人 (61%)、バター:112 人 (37%)
- (4) computer、コンピューター:272 人 (91%)、コンピュータ:19 人 (6%)、
コンピュータ:7 人 (2%)
- (5) monitor、モニター:297 人、モニタ:2 人 (1%)
- (6) explorer、エクスプローラー:295 人 (98%)、エクスプローラ:4 人 (1%)
- (7) calendar、カレンダー:292 人 (97%)、カレンダ:4 人 (1%)
- (8) literacy、リテラシ:276 人 (92%)、リテラシー:14 人 (5%)
- (9) battery、バッテリー:268 人 (89%)、バッテリー:16 人 (5%)
- (10) security、セキュリティ:284 人 (95%)、セキュリティー:12 人 (4%)
- (11) Julius Caesar、ユリウス・カエサル:252 人 (84%)、

- ジュリウス・カエサー：44人（15%）、ジュリアス・セザール：3人（1%）、
ジュリアス・シーザー：2人（1%）
- (12) 教科書 A では、コンピュータ、サーバ、インターネット、サイバー、
セキュリティ、プライバシー、という表記が混在しているが、
不合理で混乱：283人（94%）、合理的で整合的：17人（6%）
- (13) 教科書 B では、エディタ、トランジスタ、センター、ファイバー、メモリ、
リテラシー、という表記が混在しているが、
不合理で混乱：282人（94%）、合理的で整合的：18人（6%）
- (14) 教科書 C では、スピーカ、コンピュータ、プレーヤー、レーダー、ディレクター、
リテラシー、という表記が混在しているが、
不合理で混乱：295人（98%）、合理的で整合的：5人（2%）
- (15) 教科書 D では、キャプチャ、コンピュータ、インターネット、ファイバー、
メモリ、プライバシー、という表記が混在しているが、
不合理で混乱：283人（94%）、合理的で整合的：17人（6%）
- (16) 教材 K では、エディタ、コンピュータ、エラー、バインダー、セキュリティ、
リテラシー、という表記が混在しているが、
不合理で混乱：283人（94%）、合理的で整合的：17人（6%）
- (17) 教科書 F では、コンピューター、レーザー、モニター、スピーカー、メモリ、
プライバシ、プロパティという表記が混在しているが、
合理的で整合的：263人（88%）、不合理で混乱：37人（12%）
- (18) 教科書における外来語の表記が不合理で混乱している場合、どう思うか、
教育上好ましくない：292人（97%）、教育上好ましい：7人（2%）
- (19) 教科書における外来語の表記が不合理で混乱している場合、どうすべきか、
合理的で整合的な表記に改めるべきだ：290人（97%）、
不合理で混乱したままでも構わない：10人（3%）、

英語や外国語の授業では、もちろん原音に近い正しい発音表記をするべきことを教授する。また歴史や政治経済の授業でも、原音に近い正しい発音表記とするべきことを教授する。ところが情報の授業では、教員の気まぐれで、長音を付加するべき所を省いたり、長音を付けるべきでない所に付けたり、不合理で不整合な混乱表記が見られる。生徒・学生は、教科によって矛盾した違うことを教えられれば、当然こうした矛盾に違和感や混乱を感じ、教育上は有害な影響を及ぼす。

だから、約97%の学生は、上記のような不合理で不整合な混乱表記は教育上好ましくない、合理的で整合的な表記に改めるべきだ、と主張しているのである。

よって教員は内閣告示第二号の原則に則って、矛盾のない正しい表記に改めていくことが必要であり、また文科省はすべての教科において合理的で整合的な教科書検定を厳密に実施するべきことが望まれる。

10. 国際化と内閣告示第二号の改訂

また今後はますます国際化が進み、国際語としての英語による外国人とのコミュニケーションがますます増えてくる。ユニクロや楽天など社内の公用語を英語にする企業も増えつつある。よってこうした国際化に円滑に対応するためには、生徒・学生が原音に近い正しい発音を修得できるようにする教育が不可欠であり、教科によってバラバラで、不合理かつ不整合な混乱表記を矯正していく必要がある。

内閣告示第二号は大方はよいとしても、すべてが合理的で整合的であるわけではなく、

一部に不合理で不整合な問題点を含んでいるので、合理的で整合的な表記に改訂することが望ましい。

(1) 語尾が-ry の単語の場合は短母音

・memory は Cambridge でも Oxford でも語尾が-ry の単語は ri の短母音で終わるので、長音符号を付けないのが原則であり、「メモリ」が原音に近い発音表記である。また Yahoo 検索ではメモリが 8890 万件、メモリーが 3350 万件、Google 検索ではメモリが 9260 万件、メモリーが 4200 万件であり、慣用としてもメモリの方が多く使われている。

・accessory は Cambridge でも Oxford でも語尾が-ry の単語は ri の短母音で終わるので、長音符号を付けないのが原則であり、「アクセサリ」が原音に近い発音表記である。また Yahoo 検索ではアクセサリ 2 億 4600 万件、アクセサリーが 1 億 4700 万件、Google 検索ではアクセサリが 2 億 3400 万件、アクセサリーが 1 億 4700 万件であり、慣用としてもアクセサリの方が多く使われている。しかし内閣告示第二号ではアクセサリーと長音を付けているので、アクセサリに改訂する必要がある。

(2) 語尾が-ty の単語の場合は短母音

・security は Cambridge でも Oxford でも語尾が-ty の単語は ti 短母音で終わるので、長音符号を付けないのが原則であり、「セキュリティ」が原音に近い発音表記である。また Yahoo 検索ではセキュリティ 7620 万件、セキュリティー1870 万件、Google 検索ではセキュリティ 7620 万件、セキュリティーが 1300 万件であり、慣用としてもセキュリティの方が多く使われている。

・community は Cambridge でも Oxford でも語尾が-ty の単語は ti 短母音で終わるので、長音符号を付けないのが原則であり、「コミュニティ」が原音に近い発音表記である。また Yahoo 検索ではコミュニティ 2 億 6400 万件、コミュニティー2710 万件、Google 検索ではコミュニティ 2 億 2500 万件、コミュニティーが 2720 万件であり、慣用としてもコミュニティの方が多く使われている。

・party は Cambridge でも Oxford でも語尾が-ty の単語は ti 短母音で終わるので、長音符号を付けないのが原則であり、「パーティー」が原音に近い発音表記である。また Yahoo 検索ではパーティー 4350 万件、パーティー8370 万件、Google 検索ではパーティー 5550 万件、パーティーが 8350 万件であり、慣用としてはパーティーの方が多く使われている。慣用を重視すればパーティーであり、同じ-ty でもセキュリティやコミュニティと不整合・不合理となって矛盾が起こる。矛盾を起こす事例は採用するべきではなく、原音も慣用も矛盾していないセキュリティやコミュニティに合わせて統一表記をするべきである。矛盾は教育上有害であるので、セキュリティやコミュニティと同様にパーティーと統一する改訂をするべきである。

(3) 語尾が-cy の単語の場合は短母音

・literacy は Cambridge でも Oxford でも語尾が-cy の単語は si 短母音で終わるので、長音符号を付けないのが原則であり、「リテラシ」が原音に近い発音表記である。また Yahoo 検索ではリテラシ 497 万件、リテラシー491 万件、Google 検索ではリテラシ 497 万件、リテラシーが 491 万件であり、慣用としてもリテラシの方がやや多く使われている。

・privacy は Cambridge でも Oxford でも語尾が-cy の単語は si 短母音で終わるので、長音符号を付けないのが原則であり、「プライバシー」が原音に近い発音表記である。また Yahoo 検索ではプライバシー 3 億 6500 万件、プライバシ4 億 7600 万件、Google 検索ではプライバシー 3 億 6800 万件、プライバシが 3 億 7700 万件であり、慣用としてはプライバシの方が多く使われている。慣用を重視すればプライバシであり、同じ-cy でもリテラ

シと不整合・不合理となって矛盾が起こる。矛盾を起こす事例は採用すべきではなく、原音も慣用も矛盾していないリテラシに合わせて統一表記をするべきである。矛盾は教育上有害であるので、リテラシと同様にプライバシと統一するべきである。ただしこのケースは内閣告示第二号には記載がない。

(4) 検索エンジンによる「慣用」の判定

「慣用」を判定する基準として、上記では Yahoo と Google という 2 大検索エンジンを利用したが、これには Web 上に記録された言葉だけが含まれて、新聞やテレビの毎日の報道情報や国民の日常会話などが含まれていないので、また検索精度も完全とは言い難いので、必ずしも正確なものではない。しかし毎日の報道情報や日常会話などで国民が使うすべての言葉を母集団と考え、Web 上に記録された言葉はその無作為な標本と見なせば、2 大検索エンジンによる利用数の比較はおおよその目安とはなりうる。